友好の地 オランダを訪ねて

町ジュニア海外使節団交流記

写真・ザーンセスカンスの「風車村」にて

オランダを訪問した山田町ジュニア海外使節団（中学生８人、高校生２人）は１月４日から14日までの日程を終え、無事帰国しました。江戸時代にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、今年で14回目。生徒10人は友好都市ザイスト市でのホームステイや学校での授業体験を通じ、現地の人たちと友情を深め合いました。今号では、生徒たちの体験談とあわせ、交流の模様を団長の加藤春男校長がリポートします。

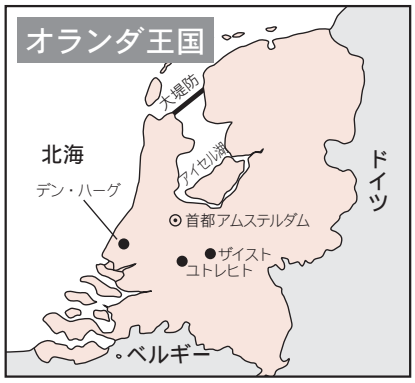
団長の加藤春男（はるお）校長

引率の長谷川勝（まさる）教諭

山田高校の加藤春男校長を団長とした、豊間根中・山田中の２年生８人と山田高の２年生２人、引率者３人の町ジュニア海外使節団13人は、１月４日から14日までの11日間、友好都市オランダ王国ザイスト市を訪問しました。

１月４日朝に山田町を出発した使節団は、５日にアムステルダムのスキポール空港に到着。30年ぶりともいわれる寒波に見舞われ川や運河が凍りつく寒さの中、空港では国際交流団体ホフライスのスティンスマ会長、ハーグ市ロイヤルフットボールクラブ役員のコニー氏の２人が温かく出迎えてくれました。

６日の朝にガイドの山口千真（ちま）さんに迎えに来ていただき、ザイスト市のＣＬＺ校へ。到着すると関係者が待っていて、歓迎



笑顔は世界共通のものと実感できた

山田高　飯田翔太郎（しょうたろう）君

言葉もほとんど通じず、文化も違う地でのホームステイは本当に不安でしたが、オランダの人の優しさでそんな不安もすぐに薄れました。今まで実際に会ったことも話したこともないぼくを本当の家族のように接してくれたホストファミリー、気軽に話し掛けてくれたり教科書を見せたりしてくれたＣＬＺ校のみんな。このようなたくさんの人の温かさで充実した研修にすることができました。この研修で実感したのは、言葉は通じなくても笑顔は世界共通のものであるということ。オランダの人たちと笑い合えることができ、楽しい毎日でした。

古里の良さ再発見 友好に協力したい

山田高　山﨑結貴（ゆき）さん

山田にも観光客を楽しませる観光地はたくさんありますが、オランダではアンネの家、ゴッホ美術館、風車村などその地域でしか見ることのできない光景ばかりでとても感動しました。しかし、街の隅などにごみが目立ち、レンガ造りの美しい建物の街なのにと悲しい気持ちになりました。今回の派遣事業でオランダと山田、両方の良いところをたくさん発見することができ、山田のことがもっともっと好きになりました。そして、オランダと山田がこれからも友好関係を築いていけるように、協力していきたいと思いました。

異国で触れた心のぬくもり忘れない

山田中　福士泰佳（やすか）さん

今回の滞在では、異国での心のつながりを感じてきました。特にもホームステイは一番の思い出です。顔合わせのときは、言葉は通じるかな、自分の思いを伝えられるかな――と不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーの温かい笑顔と手のぬくもりが緊張の糸をほどいてくれました。その温かさは７日間のホームステイの中でも感じることができ、一緒にレストランへ行ったときジェスチャーを使いながらゆっくりとメニューを読んでくれるなど、小さなことでも分かるまで丁寧に伝えようとしてくれたホストファミリーにとても感謝しています。

式が行われました。午後にはザイスト市役所を表敬訪問。議場に案内され、ヤンセン市長からの歓迎を受けたほか、ザイスト市について学びました。夕方、ＣＬＺ校でホストファミリーと顔合わせの後、生徒たちはそれぞれの滞在先へと向かいました。

翌７日と８日はＣＬＺ校の授業に参加しました。生徒たちは、この日のために学んだ英語やオランダ語にジェスチャーも交え、悪戦苦闘しながらもオランダの生徒との交流を楽しみました。

９日には、ＣＬＺ校でお別れパーティーが開かれました。最初に山田から持参した学校紹介のビデオを上映。その後、この日のために練習をしてきた「荒川念仏剣舞」を全員で踊ったほか、豊間根中の芳賀優輝君と山田高の山﨑結貴さんが空手の演舞を、豊間根中の竹内茉央さんが日本舞踊「さくら」を披露しました。剣舞の後に踊りで使用したおもちゃの「日本刀」をホストファミリーにプレゼントすると、みんな大喜びで「チャンバラ」に興じていました。

10日はアムステルダムの「アンネの家」とザーンセスカンスの「風車の村」を見学。「アンネの家」では第２次世界大戦の悲劇に心を痛め、「風車の村」ではオランダ名物の大きな風車に驚きました。

11日はアムステルダムの日本人学校を訪問、異国での日本語を使った交流に話が弾みました。最後に両校の生徒で「ふるさと」を合唱し、日本人学校を後にしました。

12日はホストファミリーとのお別れの日。お互いに抱き合いながらの涙の別れで、バスが出発してもしばらく無言で感慨に浸っている様子でした。その後ハーグの在蘭日本大使館を訪問。昼食はハーグ在住のコニー氏宅でごちそうになりました。

使節団は、ホストファミリーやＣＬＺ校の生徒たち、そのほか多くの出会いや出来事を心に刻み、遠く離れた友好の地オランダにかけがえのない友を得て、オランダを飛び立ちました。

主な行動日程

１月４日…本町出発　５日…アムステルダム着　６日…ＣＬＺ校で歓迎セレモニー／ザイスト市役所表敬訪問／ザイスト城見学／ホームステイ先へ（12日までザイスト市内でホームステイ）　７日～８日…ＣＬＺ校の授業に参加　９日…終日ホストファミリーと過ごす／ＣＬＺ校お別れパーティー　10日…アンネ・フランクハウス、ザーンセスカンス風車村見学　11日…アムステルダム日本人学校訪問／国立博物館、ゴッホ美術館見学　12日…在蘭日本大使館表敬訪問／コニーさん宅でランチ／国立司法裁判所、ビネンホフオランダ国会議事堂見学／アムステルダム発　14日…帰町

①ザイスト市役所を表敬訪問／②ＣＬＺ校の生徒たちに折り鶴の作り方を教えました／③互いに身ぶりを交えながらコミュニケーションをとります／④荒川剣舞を披露する生徒たち／⑤日本人学校にて／⑥ホストファミリーと仲良くアイススケート／⑦名残を惜しみながらのお別れでした

日本と違う交通の仕組みが興味深い

山田中　福士清香（さやか）さん

わたしは今回のオランダ派遣を通して、交通機関にとても興味を持ちました。オランダには自動車専用道路や歩道のほかに、自転車専用道路がありました。そして、ほとんどの道路が自転車の方が優先だそうです。きまりもそれほど厳しくなく、オランダの人は普通に自転車の二人乗りをしていました。道路は交差点がとても多いわりに信号機がほとんど無く、その代わりに車がスムーズに進めるような仕組みになっていました。日本と違う点が多いオランダの交通でしたが、発見が多くとても勉強になりました。

親切にしてくれたホストファミリー

山田中　阿部航平（こうへい）君

初めてのホームステイ、言葉が通じるかととても不安でした。初日、ホストファミリーから多くのことを質問されました。最初のうちは悩みましたが、話をしている相手の表情を見ながら聞いてみたら、言っていることがだんだん分かるようになりました。とても話が盛り上がったのはおみやげを交換したときでした。日本から食べ物を持っていったところ、おいしいと感激されて、とてもうれしかったです。お返しにいただいた帽子などは、宝物です。たった１週間だったけど、本当の家族のように接してもらえて、楽しく過ごすことができました。

分かり合う気持ち生まれること実感

豊間根中　竹内茉央（まお）さん

不安を抱いて始まった７日間のホームステイ。ホストファミリーのお母さんがゆっくりと「あなたに会えてうれしい。遠いところから来てくれてありがとう」と話してくれたことで不安も吹き飛びました。お互い思いがなかなか伝わらないこともありましたが、わたしのジェスチャーを使いながらの会話をみんないつもうなずきながら聞いてくれました。言葉や文化が違い、少しだけ時間はかかるけど、そのことで分かり合おうとする強い気持ちが生まれると感じました。この素晴らしい出会いを忘れず、これからも新しい出会いを大切にしたいです。

学校生活の違いに驚きの連続でした

山田中　菊地拓也（たくや）君

オランダ訪問中最も興味深かったのが、学校生活の違いでした。ザイスト市のＣＬＺ校では、歓迎会でのテンションがあまりに高く圧倒されましたが、それがオランダの人の盛り上げ方だと分かりうれしく思いました。また、教科ごとに教室の移動があることやお弁当を食べる場所が教室以外でもよいことなど、自分の学校と違うことがたくさんありました。その中でも、学校でお菓子を食べてもいいこと、しかも、自動販売機もあることには驚きました。しかし、授業を受ける様子は自分たちと変わらず、共通していることもあるのだと感じました。

自分の行動に責任持つことを学んだ

山田中　梶山萌乃（もえの）さん

今回このオランダ派遣事業で訪れたＣＬＺ校でびっくりしたのは、みんな背が高いことと、お昼にスーパーや公園などに行けること。それに何より、授業中にあめが回ってきたのには驚きました。オランダの学校では、日本ほど校則で制限されることが少なく、また制服が無く自分好みの服を着ているのを見て、自由だと思いました。とても学校生活が楽しそうでした。オランダでは、自分で規則やきまりを作ることにより一人一人が意見を持ち、自分の行動に責任を持っているので、自由でいられるのだと感じました。

心惹かれた美しいオランダの建造物

山田中　清水わかなさん

心に残ったことは数え切れないほどありますが、中でもオランダの美しい建造物に心を惹（ひ）かれました。オランダの建物はほとんどがレンガ造りになっていて、一般の家から小学校まで温かみのある赤茶色のレンガ一色。辺りを見渡すと本当に昔話の中にいるようで素敵でした。伝統的な建物では、アンネ・フランクハウスや古都・ユトレヒト、ザイスト城など、美しい建物ばかりでした。市役所では、屋根に置かれたリスなどの置物にもちゃんと意味があることを知り、そういうなぞかけをしたくなる先人たちの気持ちは世界共通なんだと思いました。

生徒たちの積極性自分も見習いたい

豊間根中　芳賀優輝（ゆうき）君

今回のオランダ派遣で特に印象に残っているのが学校での生活です。学校では、生徒が積極的なことに驚きました。見ず知らずのぼくたちにとても友好的に話しかけてくれたので、すぐに学校になじむことができました。会話は難しかったけど、ＣＬＺ校の人も親切に話してくれたので、思いを伝え合うことができました。お別れ会では、ぼくたちの発表に大きな拍手や声援をいただくことができました。学校訪問を通じ、日本の学校には無いような生徒の前向きな姿勢を学ぶことができました。この体験を、今後の生活に生かしていきたいです。